

Title	「出会いのてつがく2003」@福井高校
Author(s)	三浦, 隆宏; 西川, 勝; 稲葉, 一人 他
Citation	臨床哲学のメチエ. 2005, 14, p. 11-24
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/12230
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

「出会いのてつがく 2003」 @福井高校

次頁からは、2003年4月から一年間にわたって行なわれた大阪府立福井高校での選択授業「出会いのてつがく」の記録を掲載する。

本来であれば、一年間（あるいは前年度も含めれば二年間）の取り組みで得た知見をもとにして、授業担当者各自による突っ込んだ分析がなされるはずであったのだが、時間・能力・熱意などの不足により、現在のところ実現する見通しが立っていない。当事者の一人として、残念な思いが残っている。

なお、ここでの報告の出所である「臨床哲学メーリングリスト」とは、金曜日6限目の授業「臨床哲学講義／演習」のプロトコルを始め、教員・学生・卒業生・一般の聴講者を含むメンバー各人の活動報告、ならびに情報提供などに使用されているツールであり、多角化する臨床哲学の現在において欠かすことのできない存在となっている。



結局お蔵入りすることになった、座談会「福井高校の活動は臨床哲学として何だったのか」（2004年6月4日）での一コマ

〈一学期〉

From: 三浦隆宏
Date: 2003.3.6 16:16:21 Japan
To: 臨床哲学 ML
Subject: [clph-ml] 福井高校: 新年度 (一学期) の授業計画案

三浦です。

新年度の「出会いのてつがく」(一学期)の授業計画案を以下に記しますので、目を通して意見を(もちろん、批判大歓迎です)言っていただければうれしいです。

一学期のテーマ: 出会って、知ろう / 回数: 10回 (昨年は9回)

目的: 社会のさまざまな場所(分野)で働いている人びとと「出会う」(=話を聴いて、質問する)ことで、自分の将来(仕事)について考える機会をもってもらふこと。

内容: 助ける仕事(医療・法律)、教える仕事(教育)、伝える仕事(報道・出版)に携わるひとに、自分の仕事(の裏話・苦勞・やりがいなど)について語ってもらい(50分)、生徒からの質問に答えてもらう(50分)。前後に、予習(「どういう仕事か?」「どうすればその仕事に就けるのか?」などの、最低限知っておきたい情報をあらかじめ三浦が示し、生徒にいくつかの質問を作成させる)と復習(先週を振り返り、「自分のイメージがどう変わったか」などの感想を文章に書かせる)の時間をもうけることで、生徒のインセンティブ(やる気)を高めるようにする。

生徒の〈問う力〉と〈書いてまとめる力〉を刺激したい。なお、今回は生徒が24人(二年生:7人、三年生:17人)と多いので、4人を一グループにして6つの班をつくって、授業を進めていこうと思っています。

いちおう、昨年の反省を僕なりに踏まえたうえでの授業計画ですが、みなさんはどう思われますか? 忌憚のないご意見をお寄せください。よろしくお祈いします。

あと、じっさいに福井高校に来て、生徒と出会いたいという方を募集しています。(僕の方からお願いする可能性が高いけど。)

大阪府の規定により、3000円しかお支払いできませんが、生徒はいたってスタンダードな高校生です。いまの、(良くも悪くも)平均的な若者と出会うことができるこ

とは保証します。

From: 三浦隆宏
Date: 2003.4.15 18:10:58 Japan
To: 臨床哲学 ML
Subject: [clph-ml] 福井高校: 「ことしも大変!」

福井高校での授業「出会いのてつがく」(4/15)の簡単な報告をします。(いちおう研究室として引き受けているので。)

正直言って、「ことしもやっぱりか!」という落胆&ショックが大きかったです。受講者23名(2年生が男5人、女1人で3年生が男3人、女14人)中、5人ほどを除けばあとはしゃべったり、寝たりしている子ばかりでした。しかも、しゃべっているのが女の子連中だから、もう手に負えません。(授業の前に相手をしてくださった先生が名簿を見て、「すごいのがそろっているなー」と絶句していました。)

来週以降のことを考えると気が重いです。

ただ、しゃべっている女の子のなかにも、「おもしろそうだから」「たのしそうだから」「きょうみがあったから」という積極的な選択動機を書いてくれた子もいるので(「ラクそうだから」「テストがないから」「他になかったから」というのも、もちろん多かったです)、なんとか期待に応えて、明るく楽しくやりたいんですけど、こればかりは僕のキャラクターも関係してくるので自信がないです。

怒るときは、バシッと怒鳴ったほうがいいんでしょうか? そして、寝ているけど授業の邪魔をしているわけでもない子は、放っておいたほうがいいんでしょうか?

何か助言があればお願いします。

あと、「芸人、美容師に出会いたい!」という子が多かった。誰か知り合いいませんか? また、明確に「卒業後はフリーターになる」と書いている子が3人。就職希望は8人。まさに、いまの平均的な若者の縮図なんです、奴らは。

愚痴ばかりになったので、最後に補足。でも、真剣に受講してくれている子も何人かはちゃんといるんです。去年と同じく。不思議ですよ。

From: 三浦隆宏
Date: 2003.4.23 17:28:49 Japan
To: 臨床哲学 ML
Subject: [clph-ml] 福井高校:「今回はまずまず」

きのうの授業は、『おもしろい』授業って、どんな授業?』と題して、生徒にいろいろな意見を言うてもらおうことを試みました。授業内容そのものは、あんまりたいしてうまくいったとも思えませんが、前回よりも気さくに、多くの生徒と話をできたし、また生徒のほうも(時々はおしゃべりをしているものの)、こちらから発言を求めれば、頑張っているいろいろなことを話してくれましたので、僕的にはよかったです。

ただ、2回連続で「話をしたり、聴いたりする」授業になったので、今回は(哲学の要素ももちろん含むつも)ゲームでもしたいと思っています。個人的にひとつほど案があるので、こんどの「教育」の分科会で検討してもらいますが、誰かおもしろいゲーム(遊び)を知っている方があれば教えてください。よろしくお願いします。週一回の授業で、生徒が23人もいると、顔と名前がなかなか一致せず大変ですね。おしゃべりしている子に指名しようとしても、名前がわからずとまどうことがありました。

From: 三浦隆宏
Date: 2003.5.8 18:25:40 Japan
To: 臨床哲学 ML
Subject: [clph-ml:0011] 福井高校 (5/6):「ゲームの先へは行けず。」

今週は生徒たちにゲームをしてもらいました。(僕が勝手に作ったものなので、ゲームと呼べるほどの代物でもないんですが)
素材:『ロダンのココロ』という、犬が主人公の8コマまんがと、永井均さんの『子供のための哲学対話』という、少年と猫のダイアログ

やり方:

- 1.『ロダン』の8コマまんがをシャッフルしたものを、生徒(21人を6グループに分けた)に渡し、元通りに戻してもらう。
- 2.2つの8コマまんがのシャッフル(計16コマ)を渡し、元通りに戻してもらう。
- 3.『哲学対話』の「強さについて」のダイアログ(計8つ)

をシャッフルしたものを渡し、元に戻してもらう。

4.「友達が必要か?」のダイアログ(計10)をシャッフルしたものを渡し、元に戻してもらう。

(※徐々に難易度が上がっていくように設定した。)

なお、生徒のやる気を出させるために、「上位2チームには、こんどジュース(かアイス)をおごってやる」「下位2チームは来週、西川さんに何か質問しろ」といっておきました。

ゲーム自体は(おおむね)熱心に取り組んでくれたのですが、完成したのを見て「この話はどこがおもしろいのか?」「猫の言っていることに納得できるか?」といった、内容に踏み込むことがぜんぜんできませんでした。というのも、僕が「正解」と言うと、「やったー」と言って、せっかく完成したものをぐしゃぐしゃに戻しやがるんですよ、奴らは。おまけに次から次へと「先生、できた!」「先生、見て!」と声がかかるし。結局、僕がバタバタと教室を動きまわってただけでした。

生徒の感想:「楽しかった(けど難しかった)」というのが大半で、なかには「わからない所をみんなで話し合っただけで考えることはよかった。だけど難しかった。知らない人と話をするのはちょっと難しい。」という、僕のねらいを酌んでくれたものもありました。まあ、おおむね好評だったと言ってよいと思います。

来週は、西川さんに戦いに臨んでもらいます。



一学期の授業責任者

From: 三浦隆宏
Date: 2003.5.14 15:19:14 Japan
To: 臨床哲学 ML
Subject: [clph-ml:0021] 福井高校 (5/13): 「看護師・西川さんの授業」

きのうは西川さんに「ひとを助ける仕事」をテーマにして、22人の生徒に話をしてもらいました。

「精神病院では暴れる患者さんを縛ったりするし、自分は患者さんを殴ったこともある」、また「いま勤めている老健では、新しく入っても、仕事が生んどくてすぐにやめていく人が多い」と、けっして看護とは生やさしい仕事ではないことを話し、「自分の仕事ははたして〈ひとを助ける仕事〉たりえているのだろうか？僕にはひとを助けることなんてできない……。でも、だからこそ、いまもこの仕事をやり続けているんだ」という、西川さんの胸の内をストレートに伝える内容でした。

ある生徒からは「精神病院でこなわれていることは、患者の人権を侵害しているのではないか？」という質問が西川さんにぶつけられましたし、また「(話の内容に)びっくりした。/ショックな気がした」「看護の仕事は思っていたより、大変だということがわかった」「西川さんの話をきけてよかった。めったにきけない、すごいきょうな話をきけたと思う」「自分も福祉エリアを選たくして、やっぱりムカツくこととかしんどいことばっか……。などなど、いつもの授業の感想よりもかなり書き込んだ感想を、生徒たちは寄せてくれました。

西川さんの授業は「見えていない(看護の)現実、もしくは見たくない現実」を生徒たちに突きつけた、たいへん良い「哲学」の授業だったと思います。

来週は中間考査のためお休みで、次の授業は5/27です。天気がよければ校外で、悪ければ校内で、「体を動かした」授業をしたいと考えています。

From: 三浦隆宏
Date: 2003.5.29 13:47:47 Japan
To: 臨床哲学 ML
Subject: [clph-ml:0063] 福井高校 (5/27): 福井高校の「なんでだろう？」

先日は、福井高校の「なんでだろう？」と題して、生徒たちにとってもはや「日常の風景」と化してしまった福井高校にたいして、「なんでだろう？」と疑問符をつける作業をしてもらいました。(このアイデアは、テツ and トモの「なんでだろ～、なんでだろ～、ななな、なんでだろ～」という歌からのパクリ。)

ねらい:1) 身近なところに、たくさんの「なんで？」と思えることがあるのに気づいてもらい、2) 哲学とは、人びとがふだん「あたりまえ」に思っていること、ぜんぜん不思議と思っていないことに、あえて「なんで？ どうして？」と問うことから「はじまる」ことを知ってもらうこと。

生徒の「問い」の例:

「どうして前と後ろに黒板があるのに、すべての教室の黒板を使う方向、イスの向きが決まっているんだらう？」
「机とイスがくっついているのはなんでだらう？」(この問いは4人から出された)

「なんで福井高は選たく制になったんだらう？」

「なんで、ろう下の両側に教室があるのか？ どうして、校舎が1つにつながっているのか？」

なお、これらの「問い」は後日、福井高校の先生方に提出して、回答してもらおう予定です。

生徒の感想:

「何でだらうを考えるために学校を見つめなおせたとと思う」

「ふだんはべつに気にしていないようなことでもいざさがしてみると『これはふしぎだ。』と思うことがいっぱいかくされていた」

「自分のまわりの『なんでだらう？』を考えて、けっこう、たくさんあったからビックリ！した」など。

また、この日はM1の高嶋さんに同行してもらい、僕の授業のやり方などをチェックしてもらいました。

来週は、稲葉さんに「トラブルを解決するー話し合いをするー」と題して、生徒たちにMediationを体験させる授業をしてもらいます。

From: 三浦隆宏
Date: 2003.6.3 19:09:38 Japan
To: 臨床哲学 ML
Subject: [clph-ml:0073] 福井高校 (6/3): 「法律家・稲葉さんの授業」

きょうは、稲葉さんに「トラブルを解決する」と題する授業をしていただきました。

稲葉さんのほうから後日、ご自身の感想や生徒の意見にかんする報告がなされるとは思いますが、簡単に授業内容の紹介と僕の感想を記しておきます。

授業内容:

1) 「教室で蛇を飼う / 飼わない」をめぐる生徒どうしがもめている場面のスクリプトを7人の生徒に読んでもらい、「もし、あなたが先生だったら、この場面をどう対処するか」をプリントに書いてもらう。

2) 「隣の犬の鳴き声」をめぐるトラブルを演じたビデオを見てもらい、「隣人どうし (= 伊藤さんと高野さん) の対話がうまくいかなかった理由」「君が、伊藤さんならどうするか」「二人の調停人のうち、一方がうまくいき、もう一方がうまくいかなかった理由」の3点をプリントに書いてもらう。

3) 「犬にぶつかって怪我をした」トラブルを3人の生徒に演じてもらい、「3人の対話について気づいた点」をプリントに書いてもらう。

4) 「5人の物語」と題する話を読んで、5人の登場人物を「自分が好感を持てる」順に並べる作業をしてもらう。

進行具合:

稲葉さんと三浦、青年司法書士会の方々(3人)、藤本さんが、それぞれ生徒たちに声をかけ、プリントに自分の意見を書く作業を見守っていましたが、完全に授業から「ドロップアウト」してしまう生徒は1人もいませんでした。(なお、きょうは6回めにして、初めて23人全員が出席)

また、2) のビデオは劇それ自体がおもしろいものですし、3) のロールプレイは演じてくれた3人の女子生徒の奔放なキャラがうまく発揮されていて、多くの生徒が楽しんでくれていました。

ただし、かなり「盛りだくさん」の内容であったため、生徒どうしの意見交換や授業の感想を書いてもらう時間をもてなかったのが残念でした。(生徒に「先週、自分たちは何をしたのか」をしっかりと把握してもらうために、来週の前半はきょうの授業の復習に充てるつもりです。)

感想:

多くの「大人たち」の目を意識して、多少はきちんと受講してくれるかなと淡い期待を抱いていたのですが、生徒たちはいつも通りでした。(つまり、いつもおしゃべりをしたり寝たりしている子は、きょうもそうだった。)他人の目を意識せず、ふだん通りの自分でいられるというのは彼/彼女らの「良いところ」なのかもしれませんが、「これまでの授業できっちりと注意してこなかった」自分の授業のまずさを、きょう参加された方々にさらけ出しているみたいで、すごく恥ずかしい気持ちになりました。(この言葉じたいが、「いかに僕が、生徒たちと違って、他人の目を意識しているか」を言い表していますが。)

ともかく、COE 授業のコーディネートなどで忙しいにもかかわらず、ご自身一人で授業の準備をすべて整え、粘り強く生徒たちと対話してくださった稲葉さんに、心から感謝いたします。ありがとうございました

From: 三浦隆宏
Date: 2003.6.11 09:30:20 Japan
To: 臨床哲学 ML
Subject: [clph-ml:0105] 福井高校 (6/10): 「ついに我慢できず、授業を中止する」

当初の予定は、5限目で「5/27に生徒に出してもらった福井高校の『なんでだろう?』の問い」を素材にして、みんなでそれに答える作業をし、6限目では香山リカさんの『嫌われ恐怖症をなくそうよ』という新聞記事を読んで、生徒に意見を言うてもらうことでした。

結果を書きます。完全に失敗(というか撃沈)です。生徒のおしゃべりや、意見を求める僕に対して「わからん」「知らん」と素っ気なく答える生徒の態度に、業を煮やした僕が授業をストップさせました。「しばらく僕が黙っていれば、教室の雰囲気気づいて、しゃべっている子もおしゃべりをやめるのでは・・・」と思い、黙っていたら、20分も時間がたってしまいました。教室はかなり異様な雰囲気です。

臨床哲学のメチエ

5限の終わりに、いつも生徒に書いてもらっている「感想」のプリントを配り、「この5限目の時間のどこが悪かったのか(自分の態度、教室の雰囲気、教師である僕の態度など)自由に書いてください。」とホワイトボードに書き教室を後にしました。

2時半(6限目がはじまって10分後)にプリントを回収し、僕がさっきの時間に黙っていた理由(これまでのように、しゃべっている子にいちいち注意しながら、とりあえず授業を進行するよりも、あえて進行を停止させたほうが今後のことを考えると良いのではないかと思った)などを話し、また「どうすればこの授業が良くなると思うか?」と生徒に尋ねました。

さすがにおしゃべりをしている生徒はいませんでした。机に突っ伏しているのが半分、あと半分は考えてはいるんだけど意見を言うことはできず、黙っていました。

最後に「きょうは授業をやめてしまって、ごめんなさい」と言って、終わりました。

机を元通りに直すのを手伝ってくれた男子生徒に「やっぱり強敵だよな～、みんな」と言うと「アホな高校やから、しゃあない」との一言。生徒本人の口から、自分の通っている高校を真顔で「アホな高校」と評する言葉に、言いやうのない寂しさを感じました。

「我慢して授業をつづけるべきだったのだろうか。しかし・・・」僕には判断が付きません。生徒が書いてくれた「感想」を添付しておきますので、読んでいただければうれしいです。

なお、今回は6/24です。(来週の授業は7/15の1,2限へと変更)

From: 三浦隆宏

Date: 2003.6.25 15:27:14 Japan

To: 臨床哲学 ML

Subject: [clph-ml:0134] 福井高校(6/24):「答えのない問いを考える」

きのうは『ブラックジャックによろしく』の第42話のコピーを生徒に配布し、読んでもらいました。主人公の青年医師が「自分には医者になりたい理由がなにもない・・・」と苦悩する場面です。

設問として「(1) いちばん印象に残った箇所、もしくは

せりふはどこですか?、(2) その理由は?、(3) 主人公にアドバイスを送ってあげるとしたら?、(4) 将来、どういう職業に就こうと考えていますか?、(5) その理由は?」を与え、プリントに書いてもらいました。

ねらいとしては、設問にたいする回答を何人かの生徒に披露してもらうことで、「おなじ話を読んでも、印象に残るところは人によってさまざまである」ことを認識してもらうことで、伝えなかったことは、主人公は「どうして自分は医者になりたいんだ?」と問うているが、この問いに対する答えは存在しないこと、そして、学校では答えのある「問い」しか問われないが、学校を出たら「答えのない問い」を抱え込む機会が多くなることを知っておいてほしい、ということです。

将来就きたい職業にたいしては「なんとなく」接客業とか、「楽しそうだから」OLとか玉の輿、「スキだから」販売など、まだまだ意識が希薄のようにも思えます。空欄にしていた生徒がかなりいたし。

ただし、おもしろいことに、一番まじめにこの授業を受けてくれている2年生の女子と3年生の男子は、それぞれ「作品をとおして読者さ何かを感じてくれればいいなあと。口ではうまく言えないことも、文(というセリフ)にすれば伝わると思うから」漫画家、「小さいころからずっとなりたくて、友達と『いっしょにつくろうぜ』って約束したから」ゲームクリエイター、と将来なりたい職業を明確に書いてくれていたことです。

将来、〈創造〉をこととする仕事に就こうと考えている生徒が、この「哲学」の授業を熱心に受講してくれているというのうれしいことです。

今回は7/15の1,2限(いったい俺は何時に起床することになるんだ?)で、一学期のまとめの作業をしてもらいたいと考えています。



From: 三浦隆宏
Date: 2003.7.16 12:42:24 Japan
To: 臨床哲学 ML
Subject: [clph-ml:0170] 福井高校 (7/15): 「一学期のまとめ」

きのうは「一学期のまとめ」として、1 限目で生徒に「一学期の感想」「二学期担当者への自己紹介や要望など」を書いてもらい、2 限目ではそれをもとに生徒一人ひとりと僕とで簡単な面談（と言うほどおおげさなものでもないけど）をしました。

以下、いくつかの感想を列挙します。

1. 「もっと、いろいろな人と出会いたかった」→いろいろと事情もあり、一学期は看護師・西川さんと法律家・稲葉さんのお二人しか呼ぶことができませんでした。

(西川さん、稲葉さん、何人もの生徒が「二人と出会えてとてもよかった」と言っていましたよ。) 生徒に「考えてもらう」授業よりも、「人と出会ってもらう」授業を目指していた僕としても、この点は残念でした。みなさん、「うるさいけど、かわいげのある 23 人の生徒たち」と出会ってみませんか? 「われこそは」という方は、ぜひ会沢さんまで。

2. 「授業の意図がよくわからなかった」「先生が何をしたいのかわからなかった」

→教師本人が「試行錯誤」のしっばなしだったら、そりゃあ生徒も困るでしょうね。

でも、ひとつぐらいいはこういう「いったいあの授業は何だったんだろう?」と生徒に思わせるものがあったらいいような気がします。(調子のいい自己弁護・・・)

3. 「楽しかった」「おもしろかった」という言葉も何人か書いてくれていました。よかったです。

個人的な感想: やっぱり昨年と較べると格段としんどかったですね。正直、疲れました。二回ほど「もう、行きたくない」と思いました。残念だったのは、生徒どうしの「出会い」の機会を粘り強く用意することができなかったことです。2 年生と 3 年生の「学年の壁」をうち崩すことができなかったのが心残りです。

さいごに、メールや口頭で「感想、アドバイス、なぐさめ言葉」をかけてくださった方々に感謝いたします。ありがとうございました。

〈二学期〉

From: "AIZAWA Knk"
Date: 2003.9.11 12:44:33 Japan
To: <clph-ml@freeml.com>
Subject: [clph-ml:0216] 来年度の福井高校と、二学期について

臨床哲学研究室のみなさま

こんにちは。会沢です。

福井高校の「出会いのてつがく」二学期が、今週より始まりました。

二学期の授業についてもお知らせします(2)が、まず来年度の件をご相談します(1)。

(1) 来年度の福井高校の件

福井高校より、来年度の授業開講の可否を 10 月初めまでに決定し、返事をほしいとのことです。

授業枠は今年度と同じ、通年の選択授業、(火) 5・6 限です。

近いうちに一度集まって相談し、決めることになりますので、来年度の担当を希望するかどうか、それぞれ考えておいてください。

(2) 二学期の授業について

以下のように予定しています。

1. 担当者

会沢がコーディネートし、他に紀平さんや榎本さんなどが授業をする予定です。

2. ねらい

二学期のねらいは、シラバスと担当者の授業内容とにもとづき、次の二つです。

・身の回りのこと(例えば買い物や広告)について、話を聴いて、考えてみよう。

・お互いに話し、聴こう。(例えば自己紹介、インタビュー、他己紹介)

担当者は、その人のテーマで授業をします。

私、会沢は、意見交換できる場・関係を作ることを主眼に授業をしたいと思っています。

3. 日程

下記の日程です。見学歓迎します。

臨床哲学のメチエ

今週と来週は、さっそく紀平さんが買い物について授業をしています。今週は雑誌やビデオを見ましたが、来週については今内容を練り直しています。紀平さんの報告をお楽しみに。

10月半ば以降については、他の担当者と日程を相談中なので、確定し次第お知らせします。

- 1 9月 9日 紀平さん1：買い物のいみ
- 2 16日 紀平さん2
- 3 10月 7日 会沢1：名前を覚えよう
- 4 21日 会沢2：自分を紹介し、人を知ろう
- 5 28日 (三年生のみ)
- 6 11月 4日 (三年生のみ)
- 7 18日
- 8 22日 (土3・4限)
- 9 12月 2日
- 10 16日*日時変更かも

二学期の第一回目の授業では、おしゃべりを続け、ラクをしたいという生徒たちが多い様子。生徒たちを授業に乗せるのはやはりなかなか苦労しそうです。

From: 紀平知樹
Date: 2003.9.17 16:49:10 Japan
To: <clph-ml@freeml.com>
Subject: [clph-ml:0229] 福井高校 (9 / 7 . 1 6) に行つて来ました

紀平です。

先週、今週と二週間、福井高校へ授業をしに行つて来ました。

まず感想からいうと、確かにけっこう消耗するという感じですが、去年の話や三浦君のメールなどでいろいろと聞いていたからか、それほどひどいという感覚はありませんでした。とはいえ決してよいとはいえませんが……。それほど多くない僕の高校や高専で教えていた経験に照らし合わせてみても、普通ぐらいかな、という感じです。授業の内容としては、身近なところから考えるということが二学期の目標だったので、「買い物」からいろいろと考えてみよう、ということでやってきました。最初はグリーンコンシューマーのことでしようかと思ったのですが、こちらの準備や、高校の立地からそれはあきらめて、雑誌や広告などをみながら、「買物をする」ということのうちにどのようなことが含まれているかを考

えてもらおうと思いました。先週は、いろんな雑誌を見てもらったり、先ほども書いたように、映画(ファイトクラブ)をみて感想を書いてもらいました。

今週は、雑誌に載っている広告や、カタログなどを使用しました。具体的には、広告のロゴや商品、商品の説明などを消してコピーをとって、4つのグループに分けて、それがどういう商品の広告なのか、またそう思った理由はどこにあるか、などを考えてもらい、各グループで発表してもらうという授業でした。

発表のほうは、男子学生のグループは恥ずかしいのか、なかなか発表してくれずに、替わって僕が発表してしまいました。その後でも、女子のグループは自分で発表していました。

授業を終えて思ったのは、いちどにいくつかのことをしてもらうのではなく、時間をかけてでも一つ一つじっくりと進んでいくことが必要だということです。はっきりいって、まだまだ内容がどうこうという話にはできないという段階だと思いますが、時間をかけていけば、何とかなるのではないかという気がします。

まとまりのない、不明瞭な報告ですが、以上です。

From: "AIZAWA Knk"
Date: 2003.10.16 11:45:15 Japan
To: <clph-ml@freeml.com>
Subject: [clph-ml:0288] 福井高 10/7 「名前紹介」報告と今後の予定

臨床哲学研究室のみなさま

こんにちは。会沢です。

福井高「出会いのてつがく」二学期第三回「名前を覚えよう」(10月7日)の報告と、今後の予定をお知らせします。

第三回の授業では、意見交換できる場・関係作りのために、あらためて名前紹介をしてもらいました。

約20人で机を円形に並べて座り、名前覚えゲーム、ネームプレート作り、名前紹介(漢字の書き方説明と、名前の由来、呼び名、学年・組)と名簿作成と進めました。

体も動かしつつ関係作りをと思い、誕生日順での席替えも途中で試みましたが、これは動きが鈍くうまくいきませんでした。また私が名前を覚えられない失敗もありました。

しかし、誰もが一応関心を持って参加していたので、ま

あよかったと思います。

なお、授業のルール（授業中に携帯を使わない、筆記用具を持ってくる）や成績のつけ方についても、全体で確認しておきました。

中間考査を挟んで次回 10 月 21 日は、自分の好きなものマップを各自作成し、それについて互いに質問・コメントし合うことを予定しています。お互いを知りつつ、うまく質問・コメントできるようになってもらえたらと考えています。

From: "AIZAWA Knk"

Date: 2003.11.2 22:10:56 Japan

To: <clph-ml@freeml.com>

Subject: [clph-ml:0314] 福井高 10/21・28: させるのは困難

臨床哲学のみなさま

こんにちは。会沢です。

福井高「出会いのてつがく」10月21日と28日の様子を報告します。

=====

なお、その前に一つ。今週 11 月 7 日（金）の教育分科会では、榎本さんの授業案を検討します。

テーマは、広告とキャッチコピー、友達や自分のキャッチコピーを作ろうというものです。

ご参加とアドバイスをよろしく願いいたします。

=====

藤本さんには前報に返信いただきありがとうございます。その後大変です。

第四回 10 月 21 日は、自分の好きなものマップの作成と質問・コメント交換を試みました。ねらいは、好きなものを具体的に挙げることで自分を提示してみること、また上手な質問・コメントを意識的に試み、互いに関係を作ることでした。

しかし、冒頭「前回の名前紹介に続き...」と説明を始めようとしたら「えー」と言う生徒がいて、机を円に並べようと言っても「いやー」と言う生徒がいて、作業に取り組むならばと思って座席をそのまま容認したら、作業にもあまり取り組みませんでした。

一部の生徒たちはマップ作りと質問・コメント交換を仲

間内ではそれなりにしましたが、寝たりマンガを読み続けてほとんど取り組まない生徒たちもいました。親しくない者同士の質問・コメント交換に動かすことはほぼできませんでした。

私はマップ作成と質問・コメント交換をともにやるように大分言いましたが、次第に、私がそのように言ってもだめだとわかりました。最後はあきらめて、思っていたことがあまりできないまま授業を終えました。

反省したことの第一は、生徒たちはやる気にならないときはやらないし、私もそんな生徒たちにやらせるのは嫌だし、そもそもできないことです。今回であれば、生徒たちに作業させようとするより、自分のマップを前の黒板に面白そうに書いて見せたら、もしかすると生徒たちも興味を持って見て、釣られて自分のマップに取り組んだかもしれません。授業中までは、そんなことをしなくても各自取り組むだろうと思っていたし、生徒たちには私のマップはあまり面白くないだろうと思っていたので、そこまで思い至りませんでした。生徒たちに幾らか好きにさせておきつつ、誘ったり自らやりだすのを待つ余裕が必要なのもかもしれません。

また、最初に机を円に並ばせて授業に取り組む体勢を作ることがやはり必要だったと感じました。さらに、仲良しを越えての交流に自ら動こうとはしないので（今さらと感じるからなのか）、互いへの関心を持たせるには一人一人が発言し他の人がそれを聞くような形をとるほうがよいかもしいないと思いました。

第五回 10 月 28 日は、「ケータイの使い方 (1)(いつから、用途、頻度、費用、制限、よい点、困る点など)」について話し合う予定でした。しかし、やる気のない生徒にやらせるのは前回でうんざりしたので、このテーマがいやなら「授業（学校）のいやなこと、好きなこと⇒どんな授業（学校）がいい？」という根本的なテーマでもよいことにし、生徒たちの考えを聞いてみることにしました。（昨年度福井高校での中岡先生の授業を参考に。）さらに、それもいやならば、私の恋愛話でもよいことにしました。最後のテーマは、私が提供できて生徒たちが一番興味を持つと思われたサービス企画でした。

少しでも話しやすい場をと思い、カーペット敷きでパイプ椅子とサイドテーブルのある音楽室を使いました。円形に座るのは嫌だったのでやめました。場所が変わったので何をやるのだろうかという授業に向かってくる感じがいつもよりありました。白板を動かして生徒たちの席との距離を縮められるのも利点でした。

テーマを提示して授業で何をしたいか尋ねたところ、「映

画が観たい」との声があがり、「それなら今度シネマ・カフェをしようか」と言ったら乗ってきたので、とりあえず A4 黄色の紙にマジックで観たい映画のタイトルを書いてもらって張り出しました。

その後、授業(学校)について自分の意見を同じくマジックで紙に書いてもらって張り出すか、恋愛話が聞きたいければ質問を出すように求めました。質問は前回の質問・コメント交換を意識していました。すると、上手な質問をどんどん出したり、自分の思いを大きい声で話す(クラスの人たちに向けてというより、独り言あるいはおしゃべりを皆に聞こえる声ですという感じで)生徒もいて、他の生徒たちも興味を持って聞いていました。また、授業(学校)についても何人か意見を出してくれました。

ただし、紙に書くよう指示しても黙ってじっとしている生徒たちもやはりいました。

生徒たちは概ね授業に興味を示し、自由でラクで、他の人や私の話が聞けてよかったようでした。私も、私やクラスの他の人たちに出会い、自由に話し、それらを楽しむという点で「出会いのてつがく」の基本線に則っていたし、一度はこれもよかったと思います。しかし、このようなことをだだら続けることもできないので、他の内容でも自由に積極的に授業に参加してほしいと思います。そうなるように授業を準備したいと思っています。

次回 11 月 4 日は、ケータイの使い方について、ケータイのコミュニケーションを扱った短い恐いマンガを中心に、自分たちの使い方も振り返りつつ、考えてもらおうつもりです。作業の材料を提供し、ある程度自主性に任せつつ取り組んでもらおうと思いますが、さて乗ってくるでしょうか。また、12 月は生徒たちのリクエストを採用してシネマ・カフェに予定変更です。これから作品を選びますが、もしお勧めがあれば教えてください。

今後とも応援をよろしくお願いします。

From: "AIZAWA Knk"

Date: 2003.11.18 00:07:55 Japan

To: <clph-ml@freeml.com>

Subject: [clph-ml:0340] 福井高 11/4 ケータイ、よほど面白くないと

臨床哲学のみなさま

こんにちは。会沢です。

遅くなりましたが、福井高「出会いのてつがく」11 月 4

日「ケータイの使い方」の授業を報告します。

高校生と私たちがますます手離せなくなるケータイというメディアとその使い方を、自分たちの使い方から考えてみたらどうかと企画しました。

進行は、まず「依存症」という題の短いマンガを配って読んでもらいました。これは高校生が作った放送ドラマ(2001 年 NHK 杯全国高校放送コンテストテレビドラマ部門入選作)をマンガに描き直したもので、ケータイにより対面コミュニケーションが疎かになる様子をホラー調で描いています。

生徒たちがこれを読んでどんな反応をするのか知りたかったのですが、結果は、読むときは静まって真剣でしたが、読み捨て。つまらなかったみたいでした。マンガを読み慣れた人たちの評価は厳しいようです。

次に、いつから、どの用途で、どの頻度、どのくらい費用をかけて、またどんなルールを決めて、ケータイを使っているかを尋ねてみました。模造紙にグラフや表を用意して、そこに一人一人が自分のデータを描きこむと完成するようになっていました。

しかし、生徒たちは大体、自分のデータを紙にマジックで書いて出しはするものの、しゃべったり寝たりで乗ってきません。私が補うために質問したり、グラフ・表を作ったりと働く割に、空しかったです。

出てきたデータは、「費用は月一万円程度までで、自分で払っている人もいる。ルールは特になし。メールを一日二、三十回する。」などでした。

さらに、ケータイのよい点と困る点や、マンガ「依存症」が問うていることや連想する体験、ケータイを使ってよいコミュニケーションをするのに必要なことを挙げてもらいました。

その結果、ケータイで困るのは費用で、コミュニケーションの問題(例えば、メールの返信が面倒とか、自分一人の時間を確保するのが難しいこと)は出てきませんでした。

また、「電車の中で使ってはだめ。」と言った生徒に、「そうだけど、でも使うよね。」と私や周りの生徒が突っ込んだのですが、それをどうしていくのかには深まりませんでした。

「対面コミュニケーションを大切にする。」と言った生徒もいましたが、紋切り型でした。「ケータイは対面と同じくらい近いコミュニケーションでは?だから時に直接のコミュニケーションを妨げて入り込んでくるのでは?」と投げかけてみたものの、ケータイと対面のコミュニケーションがどう違い、対面コミュニケーションがどう重要なかは考えることができませんでした。

全般的に、生徒たちがもっと話に乗ってきたら深まって面白くなると思うのですが、そうはなりません。それよりもしゃべったり寝たりします。

生徒たちは、なぜわざわざ言葉にして話し合ったり考えるのか、そんなことしなくても感覚的にうまく使えたらよいのではないかと感じるのかもしれませんが。

また、それぞれ考える気ややる気になるとときには動くのかもしれませんが、その気のないときに生徒たちを集団で動かそうとするのはとても難しいことです。うんざりだという拒否に会います。

そんな生徒たちを乗せるには、よほど面白くないと。生徒たちを誘い込むだけの深さとプレゼン。それは非常に困難なことです。

次回から二回、榎本さんの授業です。授業プランは教育分科会の報告のとおりです。

榎本さんの健闘を祈ります。私もできるだけサポートしたいと思っていますが...

報告をお楽しみに。

12月のシネマ・カフェは、リクエストの多かった「黄泉がえり」か、「ピンポン」も面白いかと思案しています。映画を観るのはよいとして、映画について生徒たちが話すかどうか疑問に思っています。

「ピンポン」のほうが話せそうですが、乗ってこないかも。それなら、より受けそうな「黄泉がえり」にして、生徒たちがどこを支持するのか探ってみようかとも。どちらがよいでしょうか。

From: naoki kashimoto

Date: 2003.12.1 12:54:42 Japan

To: <clph-ml@freeml.com>

Subject: [clph-ml:0359] 福井高校授業 感想

こんにちは、かしもとです。

11/18と22の2日間、福井高校で「広告」(主にグラフィック広告)をテーマに授業をしてきました。

結論から言うと、「初顔の強み」ということにつけるかもしれませんが、それなりに満足のいく授業ができました。たしかに20人ということもあり、寝る人、本を読んでいるひと、しゃべっている人、無気力な人など様々でしたが、以外と素直で、こちらから話を振ればちゃんと答えるし、授業を著しく妨害するわけでもなく、思ったほどの混乱はありませんでした。噂によれば、もっとひねくれているのかなと思っていましたが、「まあ高校生というのはこんなもんだらう」という感じでした。わ

りと生徒の方も好意的に受け取ってくれたみたいでした。

(1日目)

授業はまず、その日の朝刊から広告の部分をきり取ったものを黒板にはりだし、それから生徒に「どこに」「どんな」広告があるかをあげていってもらいました。身のまわりにある広告の多さに驚いているようでした。

次に、僕が5つピックアップした広告を紹介し、どれが一番ピンとくるかを投票してもらいました。これはかなり意図的にターゲットがはっきりしたものを選んだため、投票ではわりときれいに「若い人向け」の広告に票が集中しました。

この投票の意図は、「広告にはターゲットが存在する」ということ、またどの年代、性別にターゲットを絞るかで「広告の打ち出し方がかわる」ということを意識してもらおうということにありました。また特に多かった答えに「なんとなく」というものが多かったので、すこし困りましたが、確かにドラマを見て、雑誌を読んで、広告に注目するひとはいないと思うので、そういう「なんとなく」にどう訴えかけるかが重要なことなんだ!と逆に持ち上げてみたら生徒もすこし驚きつつ関心を示していました。

次に僕が個人的に気になった広告を紹介したのち、「携帯電話」に限って、さまざまな会社ならびにターゲットにむけた広告を紹介し、上記の意図をより具体的に感じてもらおうということを試みました。

1日目の授業を振り返ると、すこし資料が多すぎたかなと思いましたが、生徒の感想を読むと比較的知っている広告があったためか興味をひいたようでした。しかし中には「広告のことを考えても社会に出て役に立たない」という意見が何人かいたので、2日目はまずこの授業を通して伝えたかったことをさきに紹介することから始めることにしました。

(2日目)

土曜日ということもあり少し生徒はすくなめでした。

この日は阪急デザインシステムズでコピーライターをしている相川さんに来ていただき一緒に授業を行いました。まず、先に書いた「オチ」ですが、「広告(広告の考え方)はこれからの君たちにとって役に立つんだ」ということです。(役に立つことがいいか悪いかということには置いておいて、関心を引くためにあえて強調しました)というのは、広告媒体という枠ぐみはずすと、普段お

こなっていること、「相手に自分の考え(この場合特に自分のよいところ)を効果的に伝える」ということにつながるからです。だからあえて「広告は、人間関係、面接、恋愛に役に立つ」んだとあえて大げさに伝えました(笑)。

で、相川さんにバトンタッチし、作品を見てもらったあとに実際コピーを生徒たちに書いてもらう作業に入りました。

テーマ・・・クリスマスは「モスチキン」を食べよう!

前もっていくつかの「特徴」と「ターゲット」を提示し、それらから一つずつを取り出し、組み合わせコピーを書くというものでした。

最初は「わからん!」「むずかしい!」と言ってましたが、作ってみると意外とともな、おもしろいコピーができました。できた人から順に発表してもらいましたが、それにコメントを加えていくと、次々と書く子もいたりして楽しい授業になりました。

最後に感想を書いてもらいましたが、1日目には「興味ない」と書いていた子が2日目には「広告を見るのは楽しい」という感想になっていたり、「考えるの楽しい」(おそらくコピーをという意味でしょうが)と書いてくれたり、と様々な感想をよせてくれました。

(個人的感想)

- ・確かに授業を受ける態度には問題があります。僕も何度か、ため息をつくしかないな、とも思いましたが生徒に「全く悪気はない」だけに困りました。でもほんと高校生というのはあんなもんです(自分をふりかえてみても)。
- ・授業の導入の仕方に半分以上神経を使うなと思いました。
- ・先生と生徒の役割をまずはっきりさせないといけないと思います。確かに臨床哲学として関わるときに、学校の先生と同じことをする(上下関係などを含め)には抵抗があるのかもしれませんが、まずはっきりさせた上で、「今回は枠をはずしてみよう」とか「この役割って意味があるのかな」という所から順に考えないと、いきなり垣根を低くしても生徒も戸惑うのではないかと思います。
- ・考えるのは「邪魔くさい」「うっとうしい」とは感じてはるようでしたが「嫌い」ではないなと感じました。

以上が授業の報告と感想です。

会沢さんをはじめ、準備に巻き込んだみなさん、ありがとうございました。

From: "AIZAWA Knk"

Date: 2003.12.28 14:53:04 Japan

To: <clph-ml@freeml.com>

Subject: [clph-ml:0401] 福井高シネマカフェ、2学期反省

こんにちは。会沢です。

福井高校「出会いのてつがく」2学期は、榎本さんに実施・報告していただいた広告・キャッチコピーの授業の後、シネマカフェと2学期反省を行い、終了しました。報告します。

榎本さんによる授業は、コピーライターの相川さんを選んでいただき、作品と説明、コピー作りが生徒たちの印象に残ったようです。

榎本さんの手をかけた資料や、わかりやすい説明、話し上手も感心で、私も見習いたいと思いました。どうもありがとうございました。

第9・10回、12月2・19日は、リクエストにもとづき、映画「黄泉がえり」を観て、シネマカフェを試みました。「黄泉がえり」は草薙剛、竹内結子主演の大ヒット映画で生徒たちが楽しめるだろうと思い、決めました。

その後の「カフェ」は、フリートークでは発言できない生徒たちもいると思い、まず、映画について一言とフェイスマーク、5段階評価で一枚の用紙に表現してもらいました。

次に、その用紙を白板に書いた5段階評価軸に合わせてみなに貼り出してもらい、それを見ながら、最初の一言をより具体的に表現するように、聞いていきました。

フェイスマークは取り掛かりやすく、貼り出しても楽しく、また貼り出すと評価の幅が一望にできてよかったです。そして、最初の一言をより具体的に聞いていくと、「よみがえりはいいことか悪いことか考えさせられた」との発言が出て、この問いを中心に、生徒たちの意見を聞きました。映画の主張には反して、「よみがえりは悪い」との意見が優勢で、興味深かったです。

さらに、一言で「ありきたり」、「単純」と表現した生徒たちに少し粘って説明を求めると、「日本の映画っぽい。ストーリーが完結してる。

洋画は課題を残して終わるものが多いように思う。」との発言が出ました。

先の問いとそれへの意見、諸理由も、この評価も、私の予想を超えていて、とてもすばらしいと思いました。「カフェ」ができるかと危惧していましたが、このように内容はとても面白かったです。

しかし、他の生徒が発言するとき、それを聞こうとせずしゃべっている生徒たちが多かったのです。

騒々しくて、発言する生徒の側まで行っても発言が聞き取れないほどでした。

全体やグループに「聞いて」と注意しても効果がありません。そういう指導力の無さを生徒たちに見透かされていました。授業の気楽な雰囲気の中、生徒たちが次第に自分の感じることを表現するようになったのはよかったです。しゃべってもよいわけではなく、今何をする(した)のか、なぜ・何のためにする(した)のかをその都度もっといいに伝えていかなければならないと思いました。

授業の最後に、2学期の授業をまとめたプリントを配り、感想を書いてもらいました。

広告の授業で複数の人が教えに来て、学べたことや、自由に話せること、生徒たちの要望を取り入れたことを評価する声もありましたが、何がしたいのか分からなかった、「もっと出会いたい」とか、もっと生徒たちを静かにさせたり、ひきつけたりしてほしいとの感想もありました。おしゃべりに興じる生徒たちも、それと同時に、学びたい気持ちを持っていると感じます。

生徒たちは、知識を習う授業には慣れていますが、シネマカフェやケータイについて考えた授業のような、自ら問い、答えを探求する授業は、経験も少なく、何をどうするのか、そしてどう「出会い」と関係するのか、特に分かりにくかったようです。

やりながらやり方を学ぶのだとは思いますが、何をするのか、そして何のためにするのかを、もっとわかりやすく伝えねばならず、それをいっそう明確に持ち、強い気持ちで、伝える技術もいろいろ試していかなければと思います。

生徒たちに伝わる授業にするためには、もっと苦勞して、時間もかけなければならないと思います。

自分がやってみて、1学期の三浦さんのご苦勞がわかるように感じました！

とても大変ですが、それだけ生徒たちから教えられます。もう少しやってみたい気持ちも。

2学期の授業の一部を担当していただいた紀平さんや檜

本さん、相川さんには、授業から私が学ぶことも多く、本当にありがとうございました。

また教育班やその他のみなさまにもご協力とご支援をいただき、感謝します。

最後に、3学期担当の岸田さんたち、がんばってくださいね。

それぞれにやってみることで、また新しい気付きがあるのではと、楽しみにしております。

二学期の授業責任者



三学期の授業責任者

〈三学期〉

From: 桑原 英之
Date: 2004.1.16 14:42:24 Japan
To: clph-ml@freeml.com
Subject: [clph-ml:0423] 福井高校 3 学期: 第 1 回授業報告

● 福井高校 3 学期: 第 1 回授業報告 ●

○担当: 桑原、付き添い: 三浦

○内容

- ・1・2 学期にやったことのふりかえり +3 学期のスケジュール確認 (プリント有)、
- ・「占い」について 2 人一組で話し合う (資料と作業用プリント有)

○感想的報告

最初から最後までざわついたままだった。唯一静まりかえったのは、中央のグループの誰かが、ドアの側の別のグループの誰かに、ドアを閉めてほしいと声をかけたときだけだった。その瞬間だけいわく言い難い緊張感があって、よく覚えている。

話に聞いていたとおり、「しゃべる」「寝る」「携帯いじる」という彼・彼女らの鉄のカーテンに話を折られては遮られた。

「組む」「つるむ」「しかとする」という彼・彼女らの三種の仁義 (ジンギ) の通し方に、教室内での徒党のニッチのありようだけは、自分の頃と相も変わらぬままなのだ、半ば滅入った。(当時も今も、この種の特有の生態系だけは受け入れられない)。

腹が立つことはなかった。くらいよりは明るい方がいいと思う。

彼・彼女らを理解したとは思わないが、身に覚えるところだけは想像できた。その時分、しゃべった事が、確かにあった。眠った事は、おおいにあった。携帯は夜明け前の頃だったけど、コロンボ (刑事) シリーズを日本史の授業で読破した。教壇に初めて立ち、内心苦笑いを禁じえなかったとすれば、それはつまり、彼・彼女らに何かを思い知らされたというよりも、われが、身に、しみたのである。

帰り、三浦さんにそれらを話すと、昔の自分に出会った事が、私にとってのこの授業での出会いだっただと教えられた。なるほど、当時、高校の授業に、手段以上の何かをのぞんだことなど、ただの一度もなかったし、先生の「意図」は、汲むべきものであっても、目指すべきものではなかった。

各グループに作業内容を説明して回っているときに、携帯電話で写真を撮らせてくれと言われて、思わず頷いてしまった (というより、その時には既に 2 枚ぐらい撮っていたらしい)。登録するとか言っていたが、意味がわからない。どこでどう使われるのかという事に、一抹の不安を感じているが、或は仮に、彼女の身に何か起こった時には、真っ先に疑われる容姿に違いないと思い、そして、こういうチープな発想をコロンボから学んだのではないかと思うと、無性に腹が立った。

でも恐らく、今ではなく、当時の自分の、あの時分に、本気で腹を立てておくべきだったのだと思い、ちょっと後悔している。

なにせよ、再来週にもう一度、ただしもう 2 年生だけらしいが、授業をやる。彼・彼女らにとっては、御免こうむると言いたいところだろうが、私は正直、少しうれしい。

次回の高嶋さん + 山本さん、2 月の岸田さん、初回はこんな感じです。

リレーに喩えるなら、ずっこけるどころか、逆走しながら、前からバトンを渡すような感じがしますが、よろしく。配ったレジュメ等は研究室にあります。

1 学期 2 学期を担当された三浦さん、會澤さん。

この授業は、主観的には、意外といい線をいっていたのかもしれない、と、思った。

長々と恐縮ですが、以上です。

編者注: 山本さんの授業にかんしては、『臨床哲学のメチエ vol.13』40 頁において、報告がなされています。